

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520169

研究課題名（和文）『長珊聞書』を中心とする中世の源氏物語古注釈の研究

研究課題名（英文）Study on old commentaries of *Genji monogatari* with special emphasis on *Chosan Kikigaki*

研究代表者

陣野 英則（JINNO HIDENORI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：40339627

研究代表者の専門分野：日本古典文学、平安時代文学、物語文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学 2901

キーワード：源氏物語、古注釈、長珊聞書、伊勢物語、古今和歌集、引用

1. 研究計画の概要

本研究の計画では、大きく2つの目的を設定した。1つは、未翻刻の源氏物語古注釈書『長珊聞書』（陽明文庫蔵、全53冊）の翻刻、及びその内容等に関する検討である。もう1つの目的は、一条兼良から宗祇、牡丹花肖柏、三条西実隆らへいたる室町時代の源氏物語古注釈の展開に関する新たな視座からの調査・考察である。

2. 研究の進捗状況

まず2本柱のうちの1つ、『長珊聞書』の翻刻作業については、写本の読みにくさ、訓点資料などの扱い等に関する厄介さなどもあり、当初の予定どおりには進んでいない。とはいえ全53冊（4分冊で刊行する予定）のうちの第1分冊に相当する部分の翻刻作業のほとんどは終わっている。あとはより正確な翻刻を期してチェック段階に進み、いよいよ第1分冊の刊行へと至る予定である。

2つめ、すなわち室町時代の源氏物語古注釈の展開に関する新たな視座からの調査・考察については、特に私自身が編集で関わっている『平安文学の古注釈と受容』が順調に2008年秋・2009年秋と連続して第2集まで刊行された。斯学の中堅もしくは新進として活躍中の方々の論考、及び資料翻刻・紹介などの掲載を実現するとともに、特に第一集では、兼良から肖柏への展開をおさえる上で重要な注釈を含む『源注』（肥前嶋原松平文庫蔵）の翻刻・紹介を共同で行った。また、『平安文学の古注釈と受容』第1集及び第2集に

発表した拙論2篇では、特に中世の源氏物語古注釈によって示唆される、『源氏物語』の「引用」方法の特性、あるいは和歌的表現の拡がりなどについて、新たな視角から考察した。

なお、上記の『平安文学の古注釈と受容』は専門家の間で想像していた以上に好評をもって迎えられた。さらに、海外の有力な日本古典文学研究者たち（ロイヤル・タイラー氏、トム・ハーバー氏、ハルオ・シラネ氏など）からも注目されている。

一方で、新たな取り組みとして、2008年春より、江戸時代の『源氏物語』享受についても調査を開始している。具体的には、早稲田大学古注の会のメンバーとともに、早稲田大学図書館蔵の『源氏物語注』と題された未紹介の写本（1冊）の翻刻と検討を進めつつある。

3. 現在までの達成度

やや遅れている。

理由

「1. 研究計画の概要」に記した2つの目的のうち、1つめの『長珊聞書』の翻刻作業については、解読しにくい文字のほか、訓点等の扱いについて意想外に手間取っているため、当初の予定よりは遅れている。一方、2つめの古注釈の展開に関する研究については、当初の計画どおり、あるいは計画以上に進展しているといえる。総じていえば、1つめの遅れがあるので、「やや遅れている。」にした。

4. 今後の研究の推進方策

上記のとおり、『長珊聞書』の翻刻作業が予想以上に手間のかかることがわかってきたので、研究協力者(新美哲彦・緑川真知子・横溝博の各氏)との連携を強めてゆくとともに、早稲田大学の研究補助員(RA)にも、よりいっそう翻刻・編集などに関わってもらうようにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

- 1 陣野英則「『源氏物語』「藤のうら葉」巻の同語反復 その諧謔性と志向性」、森一郎・岩佐美代子・坂本共展編『源氏物語の展望』第7輯(三弥井書店)、査読無し、2010年、pp. 104-141
- 2 陣野英則「古注釈の示唆する『源氏物語』の和歌的表現 式部卿宮の大北の方による「ののしり」の言葉をめぐって」、陣野英則・新美哲彦・横溝博編『平安文学の古注釈と受容』第2集(武蔵野書院)、査読無し、2009年、pp. 199-214
- 3 陣野英則「『源氏物語』とその同時代文学における「引用」の再検討」、『文学・語学』第193号(全国大学国語国文学会)、査読有り、2009年、pp.54-60
- 4 陣野英則「『伊勢物語』と『源氏物語』をつなぐ古注釈 的はずれにみえる注記のみなおし」、陣野英則・横溝博編『平安文学の古注釈と受容』第1集(武蔵野書院)、査読無し、2008年、pp. 40-54
- 5 陣野英則「「物語」の切っ先としての薫 『源氏物語』「橋姫」「椎本」巻の言葉から」、『国語と国文学』第85巻第6号(東京大学国語国文学会)、査読有り、2008年、pp.18-32

[学会発表](計2件)

- 1 陣野英則「『源氏物語』「玉鬢十帖」における『白氏文集』引用」、早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系 共催シンポジウム 日本古代文学と白居易、2009年7月25日、早稲田大学
- 2 陣野英則「『源氏物語』とその同時代文学における「引用」の再検討」、平成20年度

全国大学国語国文学会 冬季大会、2008年12月7日、関西学院大学

[図書](計6件)

- 1 陣野英則・新美哲彦・横溝博(編)『平安文学の古注釈と受容』第2集、武蔵野書院、2009年、226ページ
- 2 今西祐一郎・室伏信助(監修) 上原作和・陣野英則(編)『テーマで読む源氏物語論3 歴史・文化との交差 語り手・書き手・作者』、勉誠出版、2008年、716ページ
- 3 今西祐一郎・室伏信助(監修) 上原作和・陣野英則(編)『テーマで読む源氏物語論1 「主題」論の過去と現在』、勉誠出版、2008年、560ページ
- 4 陣野英則・横溝博(編)『平安文学の古注釈と受容』第1集、武蔵野書院、2008年、180ページ
- 5 今西祐一郎・室伏信助(監修) 上原作和・陣野英則(編)『テーマで読む源氏物語論2 本文史学の展開 言葉をめぐる精査』、勉誠出版、2008年、490ページ